

龍谷大学における「仏教 SDGs」を通じた成果と課題（2023 年度）

2024 年 11 月 1 日

龍谷大学では、2020 年度から 2039 年度を計画期間として展開する将来計画「龍谷大学基本構想 400」における将来ビジョンとして、『まごころ～Magokoro～』ある市民を育み、新たな知と価値の創造を図ることで、あらゆる『壁』や『違い』を乗り越え、世界の平和に寄与するプラットフォームとなる」旨を掲げています。これは、まさに、持続可能な社会の実現を希求する計画といえます。

また、浄土真宗の精神を建学の精神とする本学では、阿弥陀仏が「すべての生きとし生けるものを決して見捨てない」と誓われた心（摂取不捨）と、SDGs が掲げる「誰一人取り残さない」という理念とに共通点を見出し、この仏教的な視点を通して大学構成員自らの自省と気づきを促す「仏教 SDGs」を掲げ、SDGs に資する諸事業を様々に展開しています。これらを踏まえ、龍谷大学ならではのアプローチで SDGs の達成に貢献することを誓い、2022 年 2 月に「龍谷大学 SDGs 宣言」を発出するに至りました。

ここでは「環境」「経済」「社会」及び「パートナーシップ」の 4 つの区分に分類し、2023 年度の主な活動を通じた成果と課題をまとめました。各取組の詳細については「[龍谷大学の SDGs 取組実績](#)」をご参照ください。

龍谷大学基本構想 400 - 2039 年創立 400 周年を超えた未来に向けて -

<https://www.ryukoku.ac.jp/400plan/>

龍谷大学 SDGs 宣言

<https://www.ryukoku.ac.jp/sdgs/about/>

仏教 SDGs について

<https://retaction-ryukoku.com/concept>

龍谷大学の SDGs 取組実績

<https://www.ryukoku.ac.jp/sdgs/goal>

経済分野



島津製作所が、循環型社会形成に向けた包括連携協定を締結

持続可能性を重視した新たな経済システムや価値観の構築が求められている中、本学では学内はもちろん、様々なステークホルダーと連携しながら、教育・研究・地域社会への実装化等を図っています。

2023年5月23日、龍谷大学は島津製作所と、循環型社会形成に向けた包括連携協定を締結しました。本学と島津製作所で発生する使用済みプラスチック製梱包材を、廃液用ポリエチレン容器として再利用するという取り組みで、日本初の自己循環型リサイクルのモデルとなっています。将来的に全ての廃液用ポリ容器を本取り組みで再生した容器に置き換えることで、年間約0.20tのプラスチックを再生利用することを目指しています。

また、2023年5月、学生による「#ツナガルアクリルプロジェクト～コロナ感染対策アクリルボードのアップサイクルプロジェクト」が発足し、龍谷エクステンションセンター(REC)が実施する学生支援制度「龍谷チャレンジ」に採択されています。このプロジェクトでは、コロナ禍を経て使われなくなったアクリルボードを学内や地域で回収し、素材を活かしたコミュニケーションツールを開発することで、環境問題の解決に貢献しています。

その他、龍谷大学ユヌスソーシャルビジネスリサーチセンターと複数の信用金庫が参画しているソーシャル企業認証（S 認証）制度では、学生も参画しています。本制度では、社会課題の解決や ESG 経営をめざす企業に対し、経営方針や事業内容、社会的インパクトなどを基準に、評価・認証を行っています。同センターが公平公正に審査を行う第 3 者機関の運営を行なっているなかに、学生も審査委員として参画し、学生目線での審査を行っています。

今後も、地域社会や企業との連携を推進するとともに、社会課題に関心が高く解決に向けて実行力をもって行動できる人材の育成・輩出を通じて、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいきます。